

全 員 協 議 会

1月18・28日、2月4・6日、市長から依頼のあった全員協議会を開催し、協議を行いました。

市職員の逮捕に係る
対応・経緯について

1月18日開催

- ・1月17日、岩手県警から都市整備部簡易水道事業所技監の逮捕の連絡が入ってからの当局の対応の経緯について報告される。
- ・簡易水道施設維持管理業務の内訳と棚佐々忠が受注した簡易水道施設維持管理業務の内容が提示される。
- ・市民への謝罪と徹底説明、再発防止の決意が述べられる。

2月4日開催

- ・市議会からの「7項目の申入れ」に対する対応の状況が示される。
- ・事件発生の要因の究明のために行った部課長等からの事情聴取結果の分析と委託事業事務執行についての確認がされ、業務改善案が示される。

※7項目の申入れ

- ・1月17日に、当局に対し、議会として本事件について極めて遺憾である旨を伝え、次の事項を強く申し入れました。
- ・事件の徹底説明
- ・警察への捜査協力
- ・職員の綱紀粛正
- ・再発防止

- ・市民への情報開示
- ・職員に対するケア
- ・今後とも遅滞無く、議会に情報を報告すること

1月28日開催

- 市民協働に係る行政組織等の整備について

学びと地域づくりの連動を図ることにより、まちづくりのパートナーとしての地区との協働を促進するとともに、部局横断的な文化・スポーツの振興に取組み、人口減少社会における持続可能なまちづくりに資するため、(仮称)「協働まちづくり部」を市長部局に創設する提案がされた。

また、地区公民館は、(仮称)「地区センター」に移行し、より多くの住民が開かれて地域力を高める活動を展開する「地区運営組織」の形成も提案された。

しかしながら、この件に関しては、「全員協議会での議員からの意見等を踏まえ、平成31年度の創設を見送ることにした」と、2月27日の市議会月例会議で報告された。

今後、制度の十分な周知と理解を得ながら進めていくこととしている。

- 大船渡駅周辺地区土地区画整理事業等の進捗状況について

- ・仮換地整理後面積の75%について使用収益を開始。
- ・盛土工事は地区内全域の施工完了。
- ・基盤整備工事は、3つの近隣公

- 園と10カ所の緑地を整備中。
- ・大船渡駅周辺地区土地区画整理事業区域内の基盤整理工事は平成30年度内に完了予定。
- ・工事完了後、換地処分を行う。

2月6日開催

- 応急仮設住宅解消後の被災者支援の在り方について

市の福祉部門や大船渡市社会福祉協議会、共生地域創造財団において、世帯ごとの状況に合わせた応急仮設住宅入居者等被災者の支援・見守りを展開してきた。

- ・応急仮設住宅入居者の減少に伴い、活動の場は仮設住宅意外となってきた状況から、平成31年3月31日をもって大船渡市応急仮設住宅支援協議会は解散する。
- ・平成31年度以降は、復興支援員制度を利用したコミュニティサポーターを委嘱し、サポーターを継続することを活動方針としている。

- 土地利用方針図の見直し等について

- ・中赤崎地区
- ・被災跡地土地利用実現化方策に基づき、見直しを行うもの。
- ・下船渡地区
- ・内水排水対策事業を進める。

- I・L・Cと共生するまちづくりビジョン(案)及び大船渡港の活用等プラン(案)について

▼I・L・Cと共生するまちづくりビジョン(案)

・本ビジョンは、I・L・C実現に伴う効果を最大限に生かすための諸活動の取組指針として策定された。

- ▼I・L・Cの建設・運用により変わる大船渡市の姿

・分野別将来像

〈港湾・物流・道路〉

世界と岩手をつなぐ海の玄関口 国際港湾都市

〈産業〉

ポテンシャルを生かした新産業の創出により発展・進化するまち

〈観光・交流〉

多くの人々から選ばれるまち

〈生活・居住・滞在〉

多彩な人々を受け入れながら広域生活圏を拡大

〈医療・教育・社会〉

多くの人々が未来を切り開くことができるまち

- ▼大船渡港の活用等プラン(案)

・本プランは、「I・L・Cと共生するまちづくりビジョン」のアクションプランの第1弾として、大船渡港からの荷揚げ、その後地における検査・組立・保管など物流ハブ建設地としての活用、建設候補地までの物流ネットワークの構築・強化を図るため、その可能性を検討することにより、港の活用を通じて地域経済の発展に資する実践的な計画として策定された。

平成30年度大船渡市議会議会報告会を開催しました

1月28日（月）、リアスホールを会場に、市民など58人に参加をいただき、初の大船渡市議会議会報告会を開催しました。総務、教育福祉、産業建設の各常任委員長の活動報告に続いて、その後、テーマごとに分かれ、意見交換がされ意見や提言等が相次いで発言されました。

この中で出された意見の主なものは次のとおりです。

総務常任委員会

公共施設等総合管理計画

「おおふなと斎苑の今後のあり方について」

- ・他市との比較、具体的には施設内容やサービスマン、今後の人口減少を考慮して料金を検討すべきではないか。特に同じ人口規模との比較を重視する必要がある。

- ・他市と比較し市外利用者料金が低額であるのならば、市内料金よりも先に検討すべきではないか。

- ・公共サービスマンとは言い、ある程度バランスが必要ではないか。

「旧大船渡消防署の跡地利用について」

- ・子どものための遊具施設、高齢者の集う場所、貸出し用店舗、出合いの場を提供する施設、リハビリセンターなどの施設整備。
- ・除去する際は敷地内にある松の木を移す検討も必要である。

教育福祉常任委員会

市内スポーツ施設の現状と課題について

- ・大船渡市内に400mトラック

クの競技場をつくれないうか。

- ・赤崎に人工芝の立派なグラウンドが出来て、利用頻度も上がっているようだが、大会を開くにはサブグラウンドのこ

- とや国道からのアクセス、駐車場の問題などがある。野球場の構想もあるようだが、その際、付属する設備も考える必要がある。

- ・市民体育館は耐用年数の問題もあるが、トイレやミーティングルーム、着替え室の設備や駐車場が不足している。

- ・高齢者の体力増進対策に低山トレッキングはどうか。

- ・大会を開催できるような規模の施設の方が人を呼べる。

- ・身体障がい者向けのスポーツ施設が少ない。

産業建設常任委員会

雇用の確保について

- ・途中でやめていく人をふせぐため、フォロー教育が必要である。

- ・正社員と非正規社員では、同じ仕事をして給料が違う。

- ・若い人が定着しないのは、最低賃金が安いからではないか。

- ・市外から働き手を集める工夫が必要だ。安価な社宅の完備

で、Uターン、Iターン者を募るのはどうか。

- ・魚の町にふさわしい商業施設をつくって、観光客を呼び込んではどうか。

- ・漁業、水産業の後継者育成をしっかりとやって欲しい。

その他の主な意見

- ・学校統合による空き校舎などの利活用も同時並行で検討を進めるべき。

- ・遊び場や身近なところで外遊びのできる公園が欲しい。

- ・交通のアクセスが悪く生活面でもいろいろ不便を感じる。しっかりと道路網をつくらなければならない。

- ・少子高齢化で若い人々が地元になく、いかにして人を増やしていくかが重要である。

- ・婚活制度支援など、いろいろな手をつくしていくべきだ。

- ・市民、近隣の市町と連携を取って協力して市政を行って欲しい。

- ・透明性が確保されることが大事。議会からのもっと積極的な発信が大切だ。

- ・アンケートの結果、「議員と直接話す機会があるのは良かった。」「日頃、市政の問題について話をする機会がなかったので大変良かった。」などの意見や、一方で、「意見交換にもっとボリュームを配分しても良かった。」「議論する時間が少なく感じた。」など、改善を求める声もありました。

これらの貴重なご意見は、今後、所管の委員会において調査を深めるなど、政策提言に向けて役立てるとともに、次年度以降の議会報告会の開催や議会運営全体に活かして参ります。

